

マ ク ロ 経 済 学



ゼロ塾
著作権者 ゼロからの宅建・公務員塾
無断複製・無断転載等を禁じます。
Copy right©2011ゼロ塾ALL RIGHTS RESERVE

●目次

★経済学的主要発想

I. 国民所得～財市場の45度線分析

- 1 国民所得
- 2 財市場
- 3 ケインズの有効需要の原理
- 4 色々な関数
- 5 乗数効果

II. IS-LM分析(財市場+資産市場)

- 1 最終目標
- 2 投資関数
- 3 IS曲線
- 4 財市場の状況
- 5 財政政策
- 6 資産市場
- 7 貨幣供給
- 8 貨幣需要
- 9 LM曲線
- 10 貨幣市場の状況
- 11 金融政策
- 12 IS-LM 分析

III 国際マクロ

- 1 国際収支の構造
- 2 アブソープションアプローチ
- 3 ISバランス
- 4 IS-LM-BP分析
- 5 IS-LM-BP分析のしくみ
- 6 IS-LM-BP分析の財政政策
- 7 IS-LM-BP分析の金融政策

IV AD-AS分析

- 1 最終目標
- 2 AD曲線の導出
- 3 労働需要曲線
- 4 古典派の労働供給曲線
- 5 ケインジアン労働供給曲線
- 6 古典派のAS曲線
- 7 ケインジアンAS曲線
- 8 AD-AS分析の財政・金融政策

V IAD-IAS分析

- 1 フィリップス曲線
- 2 自然失業率仮説
- 3 合理的期待形成学派
- 4 IAD-IAS分析

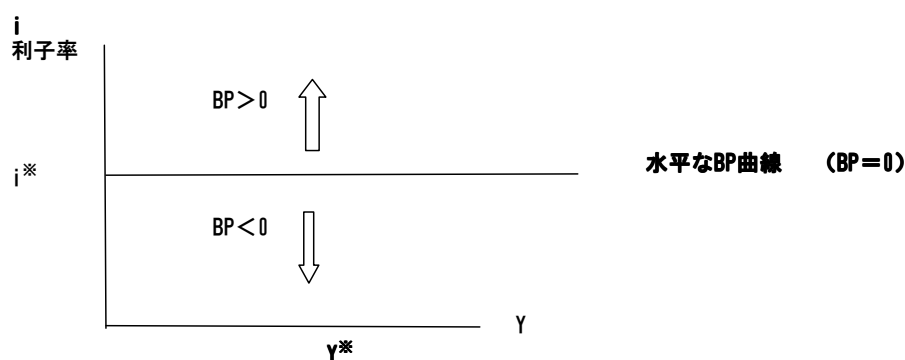
VI消費関数、経済成長論

- 1 消費関数
- 2 経済成長論

5. IS-LM-BP分析のしくみ★3つのファクター

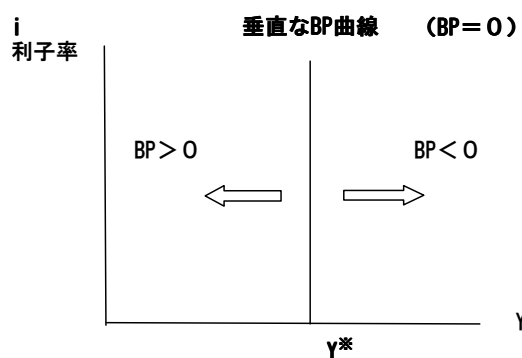
★ファクター1：国際資本移動のしやすさ⇒BP曲線の傾き

(1) 水平なBP曲線＝国際資本移動が完全フリー



i^* は世界利子率

(2) 垂直なBP曲線＝国際資本移動なし



国際収支 (BP) = 経常収支 + 資本収支
 経常収支は (EX - IM)
 IMはYの増加関数

★ファクター2：為替レート (e)の動き

eの上昇⇒円安
 eの下落⇒円高 EX) 1ドル120円が1ドル80円になった

※IS-LM-BP分析の枠組みではeは外生変数のためeの変化はグラフのシフトを引き起こすことに注意

★ファクター3：国の相場制度

(1) 固定相場制度⇒為替の需給バランスに応じて均衡させるべく日銀に円買い、円売りの義務を生じさせる制度
 日銀のMのコントロール⇒LM曲線のシフト

(2) 変動相場制度⇒為替の需給バランスに応じて均衡させるべくeがマーケットで変化する制度
 eの変化⇒(EX - IM)の変化⇒IS曲線のシフト

固定⇒日銀が均衡調整
 変動⇒eが均衡調整